

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 2 月 13 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471503692		
法人名	有限会社どんぐり村		
事業所名	グループホームどんぐり村		
所在地	福山市今津町1456-1		
	電話番号	084-933-6138	
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 8 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 6 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「ゆっくり・楽しく・自分らしく」をモットーに、ひとりひとりに合わせたケアを行い、コミュニケーションを大切にしながら笑顔で一緒に過ごせるよう心掛けています。楽しい時には一緒に笑い、辛い時には寄り添い、その方が自分らしく過ごせるよう関わっています。</p> <p>地域の方がいつもきれいに清掃してくださっている本郷川の土手の近くに施設があり、施設内から自由に入出りできるテラスから景色を楽しんだり、土手を散歩する保育園児に手を振ったり、利用者様はゆったりとした時間を過ごされています。</p> <p>そして春には土手の桜並木、秋には彼岸花やコスモスが咲きほこり、季節を感じながら過ごせます。こぢんまりとした施設ですが、家での生活の延長のような暮らしを提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の前に河川敷があり、桜並木もある。春にはお花見を楽しまれたり、また、秋にはコスモスも咲き誇り、その時々季節を感じる事ができる恵まれた環境である。周りには民家も点在し、落ち着いて穏やかに過ごす事ができる。ケアにおいても「ゆっくり、楽しく、自分らしく」という理念を全職員が共有し、利用者に寄り添い、個々の思いを汲み取り、利用者本位の支援を心掛け、自分らしく、穏やかに一日一日を大切に過ごせる環境づくりに取り組まれている。又、できる事は見守り、できない事はそっと手助けし、その人の持てる力を活かせるケアに努め、張りのある暮らしができる様務めると共に笑顔絶やさず、その人のペースを大事にされ、ゆっくりと過ごされている。医療面も協力医療機関との連携も構築されていると共に看護師の職員が常駐している為、日々の健康管理もできていて安心である。また、地域交流も以前の様には出来ていないが、元の民生委員や町内会長の声かけが常にあると共に散歩時には声かけしてもらおう等、地域の一員としての理解も得られている。職員も明るく、笑顔を大切に家族の様に過ごされ家庭的な雰囲気がいっぱい好感が持てる事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの話し合いの際に、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、一人ひとりにあった具体的なケアについて意見の統一を図っている。	誰もが見え易い場所、玄関や事務所に掲示されていると共にタイムカードの横にも掲示し出勤時見る事で再認識する事と反省、振り返る機会としている。又、全体ミーティング時にも理念に沿った支援を心掛ける様周知し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内の行事に参加させてもらっている。河川敷の清掃(年3回) コロナ禍以前はふれあいサロンの参加(週1回)をしていた。また、散歩時、挨拶や地域の方と話等したりして交流している。	町内会に加入している為、地域の情報は把握できている。地域の定期的な清掃活動には参加している。コロナ禍の状況という事もあり以前の様に地域交流は出来ていないが、散歩時には近隣の方に出会えば挨拶を交わし、顔見知りの関係に努めている。時折、町内会長や民生委員の声かけもあり、その際には現状を報告し理解も得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っていましたが、学校がやめられたため、現在は受け入れはなし。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以前は参加を呼びかけ、日程調整をしながら運営推進会議を行い、当施設の現状をお伝えし、意見交流しています。現在は中止中。	コロナ感染予防の為、会議は実施できていないが、定期的に現状や取り組み等多岐にわたり書面にて運営推進委員の方に報告し、その中で意見の把握に努め、サービス向上に活かす様取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	お話しする機会があれば、その都度当施設の現状をお伝えしています。また、困った時や相談したい時など、市役所介護保険課へ相談している。	疑問点や困難事例等があれば相談している。又、提出書類を持参した際には取り組みや現状について報告し協力関係を築く様取り組まれている。包括支援センター職員との連携は図られ、情報等が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を年2回実施。入職時にも同様の研修を行っています。申し送り時などで、気づかないうちに言葉を遮ったり、気持ちを抑えつけたケアをしていないか確認している。身体的拘束等の指針を制定し、各職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	基本身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。常に見守り重視で対応し抑圧や制止しない支援に取り組まれている。研修もオンラインで行い、報告書を提出し、全職員が正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回虐待防止の施設内研修を実施。また、虐待防止検討委員会を3か月に1回実施し、虐待発生の防止や早期発見につながるよう努めている。また普段のケアの中で職員自身が精神的に追い詰められていないかなど観察し、気になるときには話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入所者がおり、必要な知識を身につけて活用できるよう取り組んでいます。また、後見人と連絡を取り合いご本人に必要な支援を提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約または改定時、利用者、その家族の方と十分な話し合いを行い、理解と了解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、または家族から要望ができれば、その都度可能な限り対応しています。	コロナ禍の為、訪問制限があるが要望には柔軟に対応し、お会いしてもらう中で、日々の状況を伝える際に意見を聞くように努めている。また、月1回、現状報告を書面や電話等で報告する中でも聞くように努め、色々な場面での意見は運営に反映させている。又、個々に対応もしている。遠方の家族にはラインや電話等で聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見の収集や日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けており、運営に反映するよう取り組んでいる	日々のケアの中やミーティング、会議、申し送り時、また、ノートに記載してもらおう等、色々な方法で聞くように努め、多くの意見や提案は真摯に受け止め反映させている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、ボーナスの支給がある。また、向上心をもって働けるよう手当等定めている。職員の疲労やストレス要因について気を配り、必要時は勤務調整を実施している。また勤務時間中、気分転換できるよう、個室の休憩室を確保している。また職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修には出来るだけ参加できるよう計画し、調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加した際に、他事業所職員と交流する機会を持つことがある。また、他の施設の事業所内研修などに参加する機会を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で可能であれば自宅に訪問させていただき、生活状態を把握するよう努めたり、利用施設の職員さんと連絡をとり、ご本人や本人を取り巻く人たちとの十分な話し合いにより要望を聞いたり不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労やサービス利用状況、経緯などについてゆっくり話を聞き、グループホームとしてどのような対応ができるか家族と事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が本人に会いに行ったり、サービスの利用開始時、ご本人の気持ちや、今出来ることと出来ないことを見極め、他のサービスが必要であれば対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る作業は職員と一緒にやって頂き、時には入居者から知恵を借りたりすることで、介護される人、する人の関係にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談するとともに、来訪時はご本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。また外出などご家族の力をかりながらご本人の気分転換などの援助を協力していただいている。コロナ禍のため現在は中止中。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染対策のため、外出は難しいが、以前は入院された方が退院時にご家族の送迎時ふるさとをドライブするなど協力をしていただいたり、ご本人の要望があればドライブで自宅の周辺をドライブしたりした。	コロナ感染予防の為、訪問制限もあるが家族や親せき、友人の方の訪問には感染予防を徹底し、できるだけお会いしてもらい、馴染みの人や家族にとの絆が途切れない支援を心掛けている。又、家族と実家があった場所や自宅近くまで行かれた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係を把握し、楽しく過ごせる場面作りをするなど関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナウイルス流行以前は退所後の病院への面会に行ったりしていた。長期入院による退所後に入所施設を探されているご家族の相談に対応した事例があるが、本年度は対応事例なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の言葉や表情などから暮らし方や希望を確認しただけケアに反映している。意思疎通が困難な方にはご家族などから情報を得るようにしている。	日々の何気ない会話や利用者同士の会話などから汲み取る事がある。又、個別対応時の雑談からも把握し、個々の思いについては可能な限り対応している。表出困難な方には生活歴や家族からの情報を基に声かけし、その時の表情等で検討している。食べ物や帰宅願望等の思いが出る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず本人、家族、これまでのサービス利用先から、生活歴、経緯などを聞き把握に努めている。 また得られた情報を入所前にスタッフ全員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録への記載をし、情報を共有している。特に注意が必要な内容に関しては日報に書きだしたり、写真などに残すことでわかりやすくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、利用者の思いや意見を聞き、また職員からも日ごろから意見を出してもらいそれをもとに他のスタッフの意見を集約し現状に即したケアプランの作成に努めている。面会に来られた際や連絡のやり取りの際にご家族に意見を伺うことが多いが遠慮されているのか意見を言われないご家族もいる。	家族、本人等の希望、主治医の所見、日々の業務の中でのニーズや課題についての職員の意見等を基に柔軟且つ現状に即した計画を作成し、家族にも説明し、承諾を得ている。又、全職員にも周知している。モニタリングは毎月、見直しは半年となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとり、職員間で情報の共有をしている。ケアの介入が必要な気づきに対しては、日々の意見交換の場であげ、その内容に関してのケアは連絡ノートに記入し共有している。それをもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス外のニーズに関して、職員の配置を多い時間帯を作り可能な限り対応するよう努めている。(病院受診の付添、買い物代行)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加などしてきたが、新型コロナウイルスの感染防止のため現在は参加していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の承諾を得て提携先の医療機関の定期的、緊急時の往診を依頼している。また、今まで通院していた病院への受診も可能だが現在、利用希望はない。専門医の受診希望あれば看護師が付き添い受診支援している。	協力医療機関の往診が月1回、24時間指示が得られる体制である。訪問歯科支援もある。他科については家族と相談し通院支援も柔軟にしている。常勤の看護師の職員がいる為、日々の健康管理も万全であり、安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がおり、介護記録やデータから異常の早期発見に努め、かかりつけ医への相談を速やかに行っている。また、個々の利用者の観察の視点、処置方法などを適宜介護職員へ伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、看護サマリーを作成している。また、退院の場合、地域連携室と連携し、退院後に注意すべき点などの情報を提供してもらいスムーズに施設の生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向の確認をするが、状態の変化とともに意向も変わるため状況を見ながら、ご家族に現状を伝え意向を確認している。できる限りご本人・ご家族の意向に沿えるよう、希望や要望を確認している。急変時には24時間体制でかかりつけ医と連絡がとれる体制をとっている。	利用開始時、看取り指針を基に説明し、理解は得られているが、状態変化が起きた場合は、主治医、家族、職員等で話し合いを行い、その都度、家族に意向の確認を行い、方針を共有し、家族の思いに沿い、チームで支援に取り組まれている。協力医療機関との連携も構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は実施できておらず、急変や事故発生時の対応は一部の職員に頼っている側面が大きい。急変時は看護師と電話や動画通話をし、必要時はすぐ施設へ向かうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署と連携し自衛消防訓練を実施している。また年1回水害訓練も実施している。公共の避難が困難な場合を想定し近所の寺院などへの避難協力をしている。また近所の方にも協力の依頼をしている。	年2回、日中を想定し、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、慌てず速やかに対応できる様、個々の実践力を身につける様務めている。避難場所の確保もできていると共に近隣の方との協力体制も築かれている。水害に対する訓練もしている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけ時の注意点を事務所内に何か所か掲示することで常に意識するようにしており、さらに日常ケアの中で気になる時には連絡ノートや直接口頭にて注意をするようにしている。	目上の人であり、人生の先輩という事を常に意識し、個々の尊厳を大切にされた対応や言葉かけをするよう周知されている。馴れ合いになっても節度ある対応を心掛け、気付いた時には注意し合いプライバシーの確保に努めている。プライバシー接遇、個人情報等の研修もリモートでしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとる中で、気持ちや希望を引き出したり、コミュニケーションが困難な利用者にはイエスやノーで答えやすいような質問をすることで自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の大まかな日程は決めさせていただいているが、個々の利用者の体調や気分などに合わせて、できる限りご本人のペースに沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本年度はマネキュアなど希望される利用者を実施し、楽しんでもらった。散髪や白髪染めなどは、訪問カットサービスを利用しご自分の希望を元に髪型を決定されている。服の乱れなどあれば直したり、スタッフが修繕したりして対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いたいといってくださいる利用者に、準備や片付けを手伝っていただいている。食事は宅配サービスの献立を使用しているが年越しそばや庭の畑でとれた野菜を利用したメニューも取り入れたりし宅配サービス以外のメニューも取り入れている。	栄養バランスやカロリー計算された外注食であり、刻み、トロミ、ミキサー食等、個々の身体状況に合わせた形態となっている。食を促す声かけや食材の話や世間話をしながら楽しみの時間となっている。出来る方にはテーブル拭きや後かだづけ等してもらい、力量発揮の場面づくりをされ、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は1日の状態がすぐに把握できるように表を利用しタイムリーな情報を職員で共有できるようにしている。体重も表を利用し変化を把握しやすくしている。咀嚼嚥下機能の低下した利用者には個人の状況にあわせ刻みやとろみの程度の調整を細かくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な利用者には、介助にてスポンジなどを使用し口腔ケアを実施している。また、自己にて実施できる利用者には、声かけをすることで口腔ケアをしていたりよう努めている。必要時歯科往診を依頼し、必要なケアの指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿の記録を参考にしながら、次回の排尿時間を予想したり、排泄前の不穏などを早く察知し、トイレ誘導するなどしている。夜間はトイレまで間に合わない利用者にはポータブルトイレを使用している。	個々の時間帯や表情、行動から把握し、トイレ誘導され、生活習慣を活かす事と立位、座位をする事で機能維持に繋げると共に気持ち良く排泄できる支援に努めている。自立の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促したり、便秘になりやすい利用者へは腹部温罫法をするなど対応していたが効果が芳しく、大多数の利用者が緩下剤の利用をしている。ただ、便の性状など細かく記録し、医師の指示のもと、下剤の調整を細かく実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めさせていただいている。ただ、体調の悪化や入浴の拒否などあれば、無理強いせず声かけの工夫をしたり入浴の順番や曜日を変えたりして極力ご本人が入りたいと思えるタイミングに入浴していただいている。	週2回、午後の時間帯となっている。湯温やシャンプー等の希望にも対応し、入浴が楽しみとなる様、思いに沿った支援を心掛けている。入浴ロボットの設置もされている。拒否の方には無理強いせず、声かけの工夫やタイミングを見ながら、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の就寝したいタイミングで寝ていただいている。昼寝などご本人が希望されれば、自室にて休んでいただいたり、自分で訴えることが難しい場合、その日の体調などを観察し、こちらから声かけし、希望されれば休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明はすぐに見れるようファイルにして事務所に置いている。薬の変更時は往診後に記録し情報共有している。副作用の注意が必要な薬を内服している時は連絡ノートにも記載し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声かけし希望される利用者は、お盆拭き、洗濯たたみなどに参加されている。歌の好きな利用者にはカラオケに参加していただいたり、細かい作業が好きな方には塗り絵、折り紙などをしていただいている。また誕生日には誕生日会を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たいといわれる場合は、気候などを考慮し施設の庭や近所の散歩に行くなどできる限り対応している。また台所から直接テラスへでて、いつでも戸外に出れる環境を提供している。春には本郷川の土手で全員花見をしながらお茶会を実施した。現在新型コロナウイルスの感染防止のため家族との外出は遠慮していただいている。	コロナ禍の為、希望に沿った外出支援は出来ていないが目の前の川の土手や近隣を散歩する等、外気に触れる機会と気分転換となる支援を心掛けている。春には土手にある桜を見ながらお茶を楽しんでもらう等五感刺激と季節感を味わってもらっている。また、地域行事のどんど祭りを見に行かれたり、室内で季節行事やぬり絵や折り紙等して楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の持ち込みはないが、希望されれば持ち込んでいただき、防犯面で事務所の金庫に預らせていただいている利用者もいる。基本的には希望されたものを家族へ持参していただいたり現物支給しているのが現状である。	0	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されている場合はご家族へ伝え電話で話していただくこともある。ただご家族が頻回の電話を拒否される場合もあり、様子をみながら電話していただいている。今年は利用者が家族にメッセージを送りたいと言われ、動画をとりSNSで家族に送られた利用者がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、温湿度計を設置し、快適に過ごしていただけるように空調を調整している。日の強くあたる窓にはすだれやブラインドを設置したりすることで刺激の強い光を調節している。季節を感じられるような花や飾りを置いたり、利用者が作成した作品を展示することで居心地のよさを提供している。	玄関横にはウッドデッキがあり、自由に出る事が出来、天候のよい日には日向ぼっこをされる方もいる。共有の場の壁には作成されたちぎり絵やお習字等が飾られている。又、季節が感じられる装飾もある。大きなソファも置かれ、好きな場所で過ごす事ができる。不快な匂いもなく室温にも配慮され穏やかに過ごせる家庭的な雰囲気のある共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に戻って一人で過ごされたり、居間はテレビをみたり比較的賑やかな空間であるが台所のテーブルは比較的静かなので新聞を読まれたり、大きな窓の前で一人で日向ぼっこされる利用者もいる。テラスもあるため、外の空気を吸いたくなくなった方は自由にでている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具などを持参されたり、居室に好きな本やご家族から送られた花などを飾られている利用者がある。庭でとった花を花瓶にさしておいておられる利用者もいる。	テレビ、家具、寝具等、使い慣れた物を持ちこまれている。又、思い出の写真や好きな本等も飾られている。カレンダーや時計もあり、時の認識に繋がられている。出来るだけ自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく落ちついて過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者には、居室から出たら目に入るところにトイレの案内矢印をつけたり、自分の居室がわからなくなる利用者に対しては部屋の前に名前を大きく書いたものを張ったりしている。トイレなどで足を置く位置が分かりにくい利用者に対しては、テープで位置を示すようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの			○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが			○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
		○	③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームどんぐり村

作成日: 令和 6 年 3 月 8 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定 of 災害対策が出来ていない。	夜間想定 of 防災訓練を実施する。	夜間を想定し、夜勤者がどのように行動すればよいか机上も含め訓練する 地域の方へも防災訓練に関する声かけをする。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。